

歩くほど歴史と文化の面影が心和ます西部・塩尻。足の向くままに、散策してみませんか。

信州上田

西部・塩尻地域 歴史遺産マップ



- | | | | |
|----|------------|----|---------------|
| 1 | 八幡神社 | 40 | 一里塚の道標 |
| 2 | 虚空蔵尊堂 | 41 | 大蔵京古墳 |
| 3 | 巨禰社と山神社 | 42 | 豊秋霧原野神社 |
| 4 | 鎌原神社 | 43 | 天神浄水池跡 |
| 5 | 須波三穂神社東の宮 | 44 | 愛宕神社 |
| 6 | 須波三穂神社西の宮 | 45 | 壱田の遺跡 |
| 7 | 生塚神社と赤岩神社 | 46 | 座摩神社 |
| 8 | 白山神社と道祖神 | 47 | 座摩浄水池跡 |
| 9 | 白山神社と石碑 | 48 | 芭蕉の句碑 |
| 10 | お稲荷さま | 49 | 弥勒堂遺跡 |
| 11 | 金比羅神社 | 50 | 塩尻の段々畑 |
| 12 | 道祖神 | 51 | 蚕種保存の洞穴 |
| 13 | 浮世橋 | 52 | 信濃の国蚕業頌功碑 |
| 14 | 西脇稲荷社 | 53 | 虚空山東福寺 |
| 15 | 獅子岩 | 54 | 上塩尻神社と万葉歌碑 |
| 16 | 諏訪泉神社 | 55 | 上塩尻の蚕種製造民家群 |
| 17 | 津島神社 | 56 | 七つ池 |
| 18 | 善光寺道標 | 57 | 加賀の殿様用廁 |
| 19 | 道祖神 | 58 | 北国街道の石垣 |
| 20 | 生塚延命地藏尊 | 59 | 北国街道七小路 |
| 21 | 高橋 | 60 | 小岩井袖工房 |
| 22 | 丸山邸と古城の石垣 | 61 | 藤本蚕業歴史館 |
| 23 | 西講山向源寺 | 62 | 塩尻小学校資料館 |
| 24 | 五社神 | 63 | 利根島(元宿) |
| 25 | 北向観音道標 | 64 | 石造五輪塔 |
| 26 | 坂下延命地藏尊 | 65 | 半過渡し舟道標 |
| 27 | 松翁山芳泉寺 | 66 | 水天宮 |
| 28 | 歴史の散歩道 | 67 | 千曲川の霞堤 |
| 29 | 坂下大日堂 | 68 | 天満天神宮 |
| 30 | 二十三夜塔・庚申塚 | 69 | 田沢氏宅(室室造り) |
| 31 | 智徳山正福寺 | 70 | 下塩尻の蚕種製造民家群 |
| 32 | 千人塚 | 71 | 沓掛酒造 |
| 33 | 杉並木跡 | 72 | 番所跡 |
| 34 | 少林山長昌寺 | 73 | 荒神社 |
| 35 | 秋和の蚕種製造民家群 | 74 | 飯綱神社 |
| 36 | 滝澤秋晩生家 | 75 | 天狗岩(ニコソリ岩の伝説) |
| 37 | 中島銀行跡 | 76 | 六寸街道 |
| 38 | 猿田彦大神の碑 | 77 | 向井去来の句碑 |
| 39 | 宮原遺跡 | | |



おすすめ散策ルート

- 下塩尻コース** 西上田駅 → 72 → 71 → 70 → 69 → 68 → 67 → 66 → 65 → 64 → 63 → 西上田駅 距離約4.5km
- 上塩尻コース** 西上田駅 → 60 → 59 → 56 → 57 → 53 → 54 → 55 → 58 → 52 → 48 → 49 → 50 → 51 → 62 → 61 → 西上田駅 距離約4.0km
- 上田城周辺コース** 上田城 → 14 → 23 → 24 → 25 → 22 → 21 → 18 → 19 → 20 → 17 → 16 → 30 → 27 → 26 → 28 → 29 → 15 → 上田城 距離約4.5km
- 秋和コース(OP)** 20から分岐 → 31 → 32 → 33 → 34 → 35 → 36 → 37 → 38 → 40 → 39 → 41 → 42 → 50 → 44 → 45 → 20へ戻る 距離約5.5km

このマップは、上田西部地域協議会の調査研究成果をもとに、上田市西部公民館との協働で作成しました。

参考文献
 *塩尻地区写真集 20世紀の歩み(塩尻地区写真刊行会) *塩尻地区観光ビジョン 策定委員会報告書(塩尻地区観光ビジョン策定委員会)
 *歩くほどに思い出が深まるまゆの里 上田しおじり(塩尻地区近代化遺産活用ガイドブック編集委員会) *しおじり 八十周年記念誌(塩尻小学校八十周年記念事業実行委員会)
 *常盤町30年のあゆみ(常盤町自治会) *残したい 伝えたい(小林史著) *郷土 西脇村のあゆみ(西澤解吉著) *地誌 鎌原の歴史(地誌鎌原の歴史研究会)
 *真実一路 舌が道を行く(山浦哲雄著) *おらが諏訪部いいとこ三十選(諏訪部分館) *長野県町村誌 東信篇・小県郡史・上田市史(藤澤直枝著)・上田小県誌・上田市誌(ほか)

上田市西部公民館 (〒386-0027 長野県上田市常盤城5丁目1番44号)
 TEL 0268-27-7544・FAX 0268-27-7522(平日8:30~17:15)



- 【各種交通のご案内】
- 列車で
 [東京] 長野新幹線(1時間15分)→上田駅
 [大阪] 東海道新幹線→東京→長野新幹線(4時間30分)→上田駅
 [名古屋] JR中央本線→長野→長野新幹線(3時間20分)→上田駅
 上田駅→西上田駅(しなの鉄道5分)
- お車で
 [東京] 関越自動車道→藤岡JCT→上信越自動車道(2時間30分)→上田菅平IC
 [大阪] 名神高速道→小牧JCT→中央自動車道→岡谷JCT→長野自動車道→更埴JCT→上信越自動車道(6時間)→上田菅平IC
 [名古屋] 中央自動車道→岡谷JCT→長野自動車道→更埴JCT→上信越自動車道(4時間)→上田菅平IC

西部・塩尻地域には、北国街道の歴史を伝える街並み、神社・仏閣、蚕都の名残りをとどめる蚕室造りの家並み、また真田氏のゆかりの史跡など、歴史的な財産や資源が豊富にあります。



① 八幡神社 (はちまんじんじゃ)

祭神は応神天皇、神巧皇后、仲哀天皇、王依姫命。創建年是不詳。真田昌幸が1584年(天正12)上田城築城にあたり鎮護のため、東御市の八幡神社(現:滋野神社)を現在地へ移したと伝えられている。武門の神様としても崇敬されている。祭日は4月14・15日。



② 丸山邸と古城の石垣

丸山邸は、江戸時代から材木問屋を営んでいた屋敷。母屋のほか多数の別棟や蔵があり、敷地は畑を含めて約6,500㎡余である。敷地と建物を支える重厚な石垣は、見事な曲線を描き、往時の隆盛を偲ぶことができる。また、一隅の蔵を赤松小三郎記念館とし資料展示や墓を京都の金戒光明寺から移した。墓碑には彼の生涯が克明に刻まれている。



③ 千人塚 (せん にんづか)

1742年(寛保2)7月27日から8月1日まで激しい雨が降り続き千曲川が未曾有の大洪水(戊の満水)となった。佐久地方から海野、大屋、下塩尻にかけて多大な被害があり、千曲川沿岸に流れ着いた流死者を集めて正福寺に埋葬した。その際「流死念霊識(りゅうしかんれいしき)」と記した碑を建て、千人塚と称した。



④ 愛宕神社 (あたごじんじゃ)

1550年頃(天文年間)真田幸隆により祀られたとの伝承がある。後、仏教と習合して愛宕権現となり、正福寺が別当をして火難除けの祈願をしてきたが神仏混濁禁止令により1869年(明治2)愛宕神社となった。今でも消防団により出初めの日に梯子乗りを奉納し安全と防火を祈願している。このお宮には180段の石段がある。



⑤ 塩尻小学校資料館

養蚕、蚕種業に関する資料を中心に展示されている。【主な収蔵品】*養蚕技術書 *藤本蚕業蘭標本 *蚕卵紙(蚕種・種紙)*養蚕乾凧等 *その他養蚕、蚕種業に用いた道具等【見学は平日のみで、要事前予約】☎0268-22-1904(塩尻小学校)



⑥ 虚空蔵尊堂 (くうぞうそんどう)

本尊は虚空蔵菩薩。曾我兄弟の夫人虎御前の護神仏である。虎御前が善光寺へ参拝する途中この地に尊像を安置した。尊像の建立された時期は不明であるが、1844年(天保15)に再建された。祭日は1月12・13日と4月12・13日。



⑦ 西講山向源寺 (さいこうざんこうげんじ)

浄土真宗。本尊は阿弥陀如来。当初は上田原にあった。1566年(永祿10)武田信玄の本陣となり、信玄はこの寺を戦場にしていけないという朱印状を与えたといわれる。1626年(寛永3)に現在地に移転した。俳人一茶も逗留し、作品や、寝泊りした小さな家も残されている。



⑧ 杉並木跡 (すぎなみきあと)

真田昌幸が上田城築城の際、城の西側にあたる秋和集落に267本の杉を植えたこと伝えられている。このうち1本残った杉の木が史跡名勝として天然記念物に指定されていたが、台風で倒れ今はこの株跡から当時の杉並木を偲ぶだけとなった。



⑨ 壘田の遺跡 (はむたのいせき)

古代の耕地整理である条里的遺構跡が秋和、常勢城地区に顕著に見られる。特に、秋和石ノ町の壘田の遺跡は、古い形を示す典型的な長地型で、1町四方の区画を縦長に10等分して縦6間、横60間に区画されている。平安の頃、耕地整理が行われたと推定され稲作が盛んであったことを示している。



⑩ 利根島(元宿) (とねじま(もとじ)

千曲川氾濫原の微高地で他田舎人大嶋の旧跡地と伝わり、古くは舎人島と呼ばれた。1595年(文祿4)の大洪水で上下諏訪大明神、信福寺、古墳等が集落共に流失した。人家も山際に移ったが、江戸中期から徐々に戻り始め、現在は蚕室造りの大きな家が多く残っている。



⑪ 鎌原神社 (かんばんじんじゃ)

祭神は建御名方命。1869年(明治2)廃仏毀釈令により諏方社から鎌原神社となる。鎌原村の神社として建立されたが、時期は不明。真田昌幸が上田城築城したときに城郭防衛のため矢出沢川沿いに住民を移住させた。その後も神社は移さず現存している。



⑫ 五社神 (ごしゃじん)

天満天神宮・愛宕社・御嶽社・三峰神社・古峰神社の五社に道祖神を含めて五社神と呼ばれる。天満天神宮は学問の神様であり、他の四社は防火の神様である。新町の大火後個人宅から移築したり、講を作り本宮から分霊したものである。1955年(昭和30)に公会堂裏の敷地に現在の形で整備された。



⑬ 少凉山長昌寺 (しょうりょうざんちやうじ)

曹洞宗。本尊は釈迦牟尼仏。1580年(天正8)機山林積禪師が曆遊し、1574年(天正2)に小林飛騨守長昌が建てた小林堂を堂屋敷からここに移して、長昌寺として開基したと伝えられている。1875年(明治8)にここに秋和学校が開校された。1886年(明治19)に通学区が変更されるまで11年間続いた。



⑭ 座摩神社 (ざまじんじゃ)

兔峰の頂にあった石の祠「養老2年(718)の銘」の保食神(うけもちのかみ)を当地で始まった蚕種養蚕業の守護神として現地へ遷座。蚕種業の発展と共に改築を重ね、現拝殿は1896年(明治29)に全国の蚕種取引先からも寄付を募り建て替え。最盛期の例祭には近隣町村の養蚕農家の参詣者で賑わった。



⑮ 石造五輪塔 (せきぞうごりんとう)

薬師堂に石造五輪塔(上田市指定文化財)が二基ある。鎌倉時代後期(1300年代初め)の作と推定される。空輪・風輪・火輪・水輪、地輪の五つから成り立ち、ともに形がよく安定感がある。造られた理由等は不明であるが、力のある豪族がこの地にいたことが推測される。眼の神様として信仰された。



⑯ 須波三穂神社 東の宮

祭神は天照大神、健甕名方命、事代主命、下照姫命。創建は不明。西の宮と共に古くから諏訪上・下社との交流が伺え、当地の古名「須波郷」の産土神として栄えてきた。須波の名は、今でも諏訪部・諏訪形等の地名として残っている。例祭は、東の宮が4月、西の宮が10月。西脇と新町の区民が執行を行っている。



⑰ 北向観音道標

1895年(明治28)、上田橋が完成するまで上田と別所温泉、あるいは中农信を結ぶ道路はここでだけ、茶屋や商店が並び人々が往来して賑わっていた。四社は防火の神様として利用されていた。1955年(昭和30)に公会堂裏の敷地に現在の形で整備された。



⑱ 滝澤秋暎生家

滝澤家は江戸時代から関東甲信・奥州まで蚕種の仕入や販売を行っていた家で、秋暎は家業の蚕種製造業に従事しながら文学活動を行い、上田地方の近代文学の発祥の舞台となった場所である。1902年(明治35)に伊良子清白が秋暎のもとを訪れ「秋和の里」を詠んだ詩や、1947年(昭和22)に佐藤春夫が訪れたときの「秋一日のうた」の詩が残されている。



⑲ 芭蕉の句碑 (ばしょうのくひ)

芭蕉の句碑「雪散るや徳屋の薄の刈り残し」が上塩尻の俳人佐藤辰郎らにより1777年(安永6)座摩塚に建立された。句碑の横には1861年(文久元)建立の道祖神もある。



⑳ 水天宮 (すいてんぐう)

舟人の守護神水の神、安産の神として水天宮が祀られている。千曲川水系では比較的大きな社殿とされている。毎年9月に例祭が行われている。



㉑ 須波三穂神社 西の宮

祭神は健南方刀賣命、大己貴命、八坂刀賣命。創建は952年(天暦6)頃とされている。現在の社殿は、上田バイパス道の開通により、1984年(昭和59)10月、現在の場所に再建された。参道を南下すると、矢出沢川の下須波橋のもとに一对の御神木が見られる。江戸時代後期には、境内で相撲興行が行われていた。



㉒ 坂下延命地藏尊

本尊は地藏菩薩。延命・子育て・子安地藏等色々な呼び名がある。今は延命・袂防止のお地藏さんと呼ばれる。後に上田城主となった仙石氏により常福寺は下之条に移された。代わって小諸の菩提寺である宝仙寺をこへ移し、遯年芳泉寺とした。境内には上田市指定史跡の「小松姫の墓」や「仙石家靈廟」がある。



㉓ 中島銀行跡 (なかじまごんぎんあし)

1882年(明治15)に秋和銀行が創業し、さらに1900年(明治33)中島吉左衛門により中島銀行が創設され、ともに地域経済界の発展に寄与した。1929年(昭和4)両行とも塩田銀行などと合併して小泉銀行となり、その後1940年(昭和15)八十二銀行に吸収合併された。(写真は国道18号線沿い撮影)



㉔ 虚空山東福寺 (くうこざんとうふくじ)

真言宗。本尊は大日如来。742年(天平14)行基上人が開いたと言われる。1873年(明治6)に塩尻学校が開校され、上塩尻学校が開校するまで9年間続いた。1720年代(享保年間)に建てた本堂・観音堂が1978年(昭和53)に焼失。1982年(昭和57)に本堂を再建。背後の山中に寺持の虚空蔵堂が建つ。虚空蔵山頂の虚空蔵尊を遷したとも言われる。



㉕ 千曲川の霞堤 (ちまがわのかすみづみ)

千曲川には堤防の堤が切れている箇所が幾つかある。これは川の増水で堤防を破壊するのを防ぐこと特徴。古い絵馬、俳句の額があり、敷地内に一級河川では、数が少なくなっているが堤防の防護策の一つである。



㉖ 生塚神社と赤岩神社

生塚神社:祭神は大己貴命、建御名方命。1861年(文久元)までは諏訪大明神、諏訪社の分霊であった。祭礼は10月中旬。赤岩神社:1884年(明治17)までは戸隠社と云い戸隠社の分霊であった。祭礼は4月中旬。他境内には、皇大神宮・金比羅社・左口社・天神社・庚申が有る。



㉗ 松翁山芳泉寺

浄土宗。本尊は阿弥陀如来。開創当時は常福寺と称した。1600年(慶長5)真田信之は常福寺を菩提寺としたが、信之の後に上田城主となった仙石氏により常福寺は下之条に移された。代わって小諸の菩提寺である宝仙寺をこへ移し、遯年芳泉寺とした。境内には上田市指定史跡の「小松姫の墓」や「仙石家靈廟」がある。



㉘ 猿田彦大神の碑

猿田彦は、日本神話の中で天照大神の道案内をしたことから道祖神の神様となり、1800年(寛政12)村人や北国街道の旅人の安全を祈願して設立したと伝えられている。立石は横町大神宮(伊勢宮)から、台石は裏山から村人千人により運ばれたと言われている。(写真は国道18号線沿い撮影)



㉙ 上塩尻神社と万葉歌碑

祭神は諏訪大明神。奈良時代に舎人嶋(現元宿)に創建したが、1595年(文祿4)の大洪水で流出し、1709年(宝永6)現在地に再建。境内に他田舎人大嶋が775年(天平勝安7)に父子惜別の心情を詠んだ万葉歌碑「唐衣 裾にとりつき泣く子を置きてぞきぬや 母なしにして」がある。



㉚ 天満天神宮 (てんまんてんじんぐう)

1771年(明和8)の創建と伝えられ、水害を防ぐ祈りをこめて、敷地を舟形に作ることに特徴。古い絵馬、俳句の額があり、敷地内に福島安正書の「菅公一千年記念碑」がある。



㉛ 西脇稻荷社 (にしわきいなりしゃ)

祭神は宇加之御魂大神、稲倉魂大神。1843年(天保14)京都の伏見稲荷大社の御神霊を受け創建された。その後二回の改築を経て、現在の社殿は2003年(平成15)に建てられた。境内には、五穀豊穣、商売繁盛、殖産興隆、家内安全、交通安全の守護神として信仰を集めている。



㉜ 歴史の散歩道 (れきしのさんぽみち)

坂下から上田城に通じている細い道。1993年(平成5)「歴史の散歩道」として、石畳を敷き、石の街灯を設置するなどして整備した。沿道の建物も新築時や改築時に形態や色彩を合わせ、壁の塗り替えをしたりして、周辺が一つになって歴史的氛围気を醸し出し、一昔前の風景を思わせる小路となっている。



㉝ 一里塚の道標

江戸幕府は、1604年(慶長9)五街道をはじめ脇往還の北国街道など重要な道筋に杉、松、榎などを植え、一里塚を築き旅人の安全を図った。この道標には「此道往還人(このみちおうかんびと)」 「右北国街道、左さくば道」と刻まれており、「右は北国街道、左は農道」と教えている。



㉞ 七つ池 (ななついで)

上塩尻大村地区には、湧き水を利用した七つの池があった。生活用水であり蚕具などを洗うにも使われていた。現在は3ヶ所のみ残っている。写真の水神祠には、1598年(慶長3)の銘がある。



㉟ 飯綱神社 (いひづなじんじゃ)

祭神は宇迦之御魂神。農業の神様である。719年(孝徳)の句碑が1799年(寛政11)地元の人々により建てられた。向井去來は松尾芭蕉の十高弟のひとりで、去來の句碑は全国で9基しかないと言われ長野県では岩鼻の句碑一つだけである。



㊱ 諏訪泉神社 (すわいずみんじ)

祭神は建御名方命。創建年是不詳。本殿の棟札に1760年(宝暦10)がある。今の拝殿は1892年(明治25)に建造。諏訪部(本村)、泉郷(坂上、坂下)、泉崎(鉄道南)の三郷の産土神である。境内には、皇大神宮・戸隠神社・天神社・金比羅社等のお宮や、超特大級の「庚申塔」、鳴る石「ほらが石」、神社拝殿の彫刻などがある。



㊲ 坂下大日堂 (さかしたたいにちどう)

本尊は大日如来。御堂に二体の座像が祀られている。1570年頃(元亀年間)の創建と伝えられている。羊・猿年生れの守り本尊である。



㊳ 大蔵京古墳 (おほくらきやうこふん)

上田市指定文化財で古墳の規模は各辺30m以上の方墳である。出来たのは4~5世紀初期と推定され土師器の大型有段口縁壺の破片が採取されたことから上田地方最古の古墳と言われている。



㊴ 北国街道七小路 (ほくこくかいどうななごし)

馬場小路=馬場姓が多い寺小路=奥に東福寺がある古小路=どの小路よりも広く、北国街道から塩田街道への起点。蔵小路=年貢米を蓄える郷蔵があった毘沙門小路=奥に毘沙門堂があった岩井小路=角に小岩井家があった山小路=西山の桑畑に行くに利用した



㊵ 向井去來の句碑 (むかいきょらいのくひ)

岩鼻の崖下に「岩ばなや爰(ここにも)ひとり月の客」の句碑が1799年(寛政11)地元の俳人らにより建てられた。向井去來は松尾芭蕉の十高弟のひとりで、去來の句碑は全国で9基しかないと言われ長野県では岩鼻の句碑一つだけである。



㊶ 生塚延命地藏尊

檜の寄木造りの半圓形式の「延命地藏菩薩像」で江戸中期の作。1583年(天正11)真田昌幸が築城後山郷の通称「堂屋敷」諏訪部(本村)、泉郷(坂上、坂下)、泉崎(鉄道南)の三郷の産土神である。境内には、皇大神宮・戸隠神社・天神社・金比羅社等のお宮や、超特大級の「庚申塔」、鳴る石「ほらが石」、神社拝殿の彫刻などがある。



㊷ 二十三夜塔・庚申塚

二十三夜塔:月を信仰の対象とした月待ちの行事において、供養のしるしとして建てた石碑(月待塔)である。11月23日の宵、講中の人達によりお祭りが行われる。庚申塚:道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられたものである。



㊸ 豊秋霧原野神社

祭神は神功皇后、応仁天皇、仁徳天皇。お八幡さんとして親しまれ、五穀豊稔と村人の安全を祈願するお社(産土神)である。871年(貞観13)に京都山城から分祠したと伝えられている。武勇の神様として歴代領主からも崇拝され真田信之の奇進状などの古文書も残されている。



㊹ 天神浄水池跡 座摩浄水池跡

1927年(昭和2)から塩尻市挙げて取り組んだ上水道建設は、1929年(昭和4)に竣工した。地方としては、画期的な大事業であり、水源は魚ノ沢、中ノ沢、大沢に集水槽を設けて集水し、配水池は、秋和の天神、上塩尻の座摩に築造し、全村に配水管をめぐらした。これにより衛生環境の改善に寄与してきた。



㊺ 秋和の蚕種製造民家群

江戸時代から昭和の中頃までの蚕種製造に関する資料や備品、また、文書や記録などが保存・展示されている。【見学は要事前予約】☎0268-24-2460



㊻ 高橋 (たかばし)

矢出沢川にかけた高い橋なので高橋と言う。敵が攻めてきたとき、この橋を落とせば、西の方から上田の城下町に入れない。矢出沢川は自然の堀で、上田城にとって重要な防衛地点であった。さらに、ここは道を直角に曲げて作った「枡形」である。



㊼ 智徳山正福寺 (ちとくざんしやうふくじ)

真言宗。本尊は大日如来。742年(天平14)行基上人の開山と伝えられ、1560年(永祿3)当時の八幡社の西側より現在地に移した。1851年(嘉永4)焼失、1873年(明治6)に再建された。境内の観音堂には右手に桑を持ち、左手に蚕を乗せ、桑の葉に繭をつけた冠をかぶっているという大変珍しい姿の仏様が祀られている。



㊽ 上塩尻の蚕種製造民家群

上田地方の蚕種製造は1830年代(天保年間)には日本一の本場となり、上塩尻を中心として周辺の村々も蚕種製造が盛んになった。地区内には蚕室造りの特徴である「気抜き屋根」(越屋根)と白壁の大きな家々が多く残り、門構え、土塀、石垣と共に往時を偲ばせる。



㊾ 上塩尻の蚕種製造民家群

江戸時代から昭和の中頃までの蚕種製造に関する資料や備品、また、文書や記録などが保存・展示されている。【見学は要事前予約】☎0268-24-2460



㊿ 下塩尻の蚕種製造民家群

江戸時代から昭和の中頃までの蚕種製造に関する資料や備品、また、文書や記録などが保存・展示されている。【見学は要事前予約】☎0268-22-1904(塩尻小学校)